

化学物質過敏症は栄養で治す

講師 北里大学名誉教授 そよ風クリニック院長 宮田幹夫 先生

日時 2017 年 5 月 20 日 (土) 午後 4 時～6 時

講演開始時間が遅いのでご注意ください。

総会 (1 時 30 分～2 時 30 分) 後 3 時 30 分までは交流会といたします。

ご自由におしゃべりをお楽しみください。

会場 神奈川県立かながわ労働プラザ 4 階第 3 会議室

横浜市中区寿町 1-4 (裏面地図参照)

主催 認定 NPO 法人 化学物質過敏症支援センター

(CS 支援センター) TEL.045-222-0685

参加費 1,000 円

逃げることは大切です。しかし逃げているだけでは回復はできません。化学物質過敏症に特效薬はありません。食事の大切さをしっかりと確認してください。下記に宮田幹夫先生によるご寄稿「栄養と医学 病気別に最近 10 年間に発表された科学論文を中心として」(CS 支援第 44 号より 46 号まで掲載) よりご紹介します。

—化学物質過敏症、電磁波過敏症を含めての健康改善のための特效薬はありません。基本的な体調を、栄養を通じて改善することを目的としています。この栄養による健康回復は、他の病気でもまったく同じことになるのです。すべての健康管理は栄養からです。

救命救急処置など、近代医学の進歩は素晴らしいものです。一方、元から治すとなるといまだ非常に不十分です。治すのは患者自身に負うところが大きいのです。例えば解熱鎮痛剤では風邪は治りません。患者自身が治しているのです。そこで登場するのが栄養ということになります。

近代医療と組み合わせても栄養が必要なのです。例えば、一般薬剤が体内の栄養素を消耗させる可能性もあります。抗生物質は腸管の正常細菌叢の変調を引き起こし、免疫系の弱まりと、イーストの異常増殖を引き起こす可能性もあります。また B5 (ビオチン) の低下も起こします。サルファ剤は B12 の低下を起こします。

経口避妊薬はビタミン B2、B5 (ビオチン)、B6、B12、C、葉酸、マグネシウム、亜鉛の欠乏を引き起こします。利尿剤は、カリウム、カルシウム、マグネシウムの欠乏を引き起こします。コレステロール低下用薬剤にはコエンザイム Q10 の欠乏を生じるものもあります。精神安定剤はコエンザイム Q10 の低下を、向精神薬は B2 の低下を起こすこともあります。喘息薬、カフェイン、利尿剤、アルコールはマグネシウムを低下させる可能性があります。さらに、医療薬剤がどのような作用を持っているかは未知数のところもあります。

参加申込書

CS 支援センター 会員・非会員 いずれかに○をお付けください。

お名前 _____

お電話 _____

ご住所または所属 _____

CS 支援センター TEL.045-222-0685 FAX.045-222-0686

※5月19日までにお申し込みください